

一般社団法人 日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報 JASCG

- 1◎巻頭言
- 2◎第36回研究大会(愛知大会)のご案内
- 3◎第25回夏季ワークショップのご案内
- 4◎支部のキラリ
- 5◎一支部活動報告【高知県支部】
- 6◎スクールカウンセラー情報
- 7◎新入会員紹介//研修委員会//調査研究委員会
- 8◎認定委員会//学会誌作成委員会
- 9◎広報委員会//ガイダンスカウンセラー関連情報
- 10◎会長コーナー//事務局より//編集後記

第74号

巻頭言 私と教育相談

学校教育相談の学際性と実践について：
いじめの重大事態に係る調査報告書からの
示唆

2023年度総会より発足した新体制のもと、学会誌作成委員会委員長に任命された中村豊です。本誌は、前体制よりWEB上に論文を公開する「ジャーナルのオープンアクセス化」への移行が始められました。このことに伴い、本誌に掲載された論文等は、会員外の人々の目に触れることもあります。また、本誌に掲載された論文は会員の研究・実践の賜物であり、本学会の水準を示すとともに、学校教育相談の発展に寄与するものと位置付けられます。

本学会が研究対象とする学校現場における教育課題は多々ありますが、その中でも、いじめが重大事態化する件数は増加しており、社会問題となっています。いじめ防止対策推進法が施行されて10年超となっても課題が山積しているいじめ対応について、改めて学校教育相談が果たす役割や期待される機能について検証していくことが求められています。

いじめ重大事態に係る調査報告書には、学校教育相談及び隣接領域からの知見を活かし、日常的に児



学会誌作成委員長
中村 豊

童生徒と関わっている教職員が、実効性のあるいじめ対応を担っていくことの大切さが示されています。例えば、こども理解に基づいた的確なアセスメント、生徒指導関連法規等の正しい理解、チーム学校としての実践等、これまで重視されてきた視点に加えて、法や医療、福祉分野などの専門家と連携・協働していくことが必要になっています。

多くのいじめ重大事態に係る調査報告書には、再発防止に資する提言が述べられています。そこには、校内教育相談体制の充実や、教育相談コーディネーターへの期待が示されています。同時に、児童生徒の教育環境に求められる心身ともに安心安全な場を保障していくために、教職員が担う学校教育相談の機能が問われています。

★第36回研究会(愛知大会) のご案内

期日：令和6年8月3日～4日
場所：愛知県刈谷市総合文化センター
※参加申込受付中！
本部HPからお申し込みください。

宮城大会以来、実に5年ぶりの対面開催がいよいよ近づいてきました。

この間、学校と子どもたちを取り巻く社会は大きく変化しました。昨年11月、文部科学省が発表した令和4年度の小中学校不登校児童・生徒数はおよそ29万9000人。10年連続で増加しているばかりか、2年間で10万人増えて約1.5倍になっています。その原因として、コロナ禍で生活様式が変化したことにより子どもたちの生活リズムが乱れがちであることや、人間関係づくりのスキル低下などを挙げる人もいます。

われわれ大人の社会でもICTを活用したオンライン会議やリモートワークなどが盛んに行われており、スーパーマーケットやコンビニエンスストアのセルフレジも珍しくありません。人と会わずに済ませることは気が楽ですし、効率を重視する面からますます増えていくものと思われます。他にも、社会の意識の変化は多岐にわたっており、多くの場面で、子どもたちが成長するために必要と思われる仕組みが失われつつあるように感じられます。これからの社会の中で、子どもたちはどのように成長するのでしょうか。子どもたちの苦しみが伝わってくるように感じます。

人間関係づくりをはじめとした子どもたちの成長を支援する取組は、本学会の得意分野の一つです。今、わたしたちが果たすことのできる役割は大きいように思います。もう一度、人と人とのふれあいを重視した教育の在り方を見直す原動力になることができる、そういう形で社会に貢献できるのではないかと思います。

だから、第36回総会・研究会(愛知大会)は対面で開催します。大会テーマは「学校教育相談はどこへいくのか -アフターコロナと生徒指導提議改訂-」です。コロナ後の社会の変容と改訂された生徒指導提議で求められていることの関係から、これからの学校教育相談の在り方について、みなさ

んと膝をつき合わせて議論したいと思っています。

また、記念講演の演題は「教室はなぜ『対面』か? ~学校だからできる、これからの学習指導・やる気支援のために~」です。講師の名古屋大学大学院教育発達研究科中谷素之先生が大会テーマに御賛同くださり、このような演題をいただきました。中谷先生は名古屋市の教育委員も務められ、教育現場に近い立場から、児童・生徒の学習や対人関係の形成プロセスなどを実証的に研究していらっしゃる、今回の御講演を愛知支部の実行委員一同、皆が楽しみにしている方です。

最後に、愛知大会のマークを紹介したいと思います。

「最小のミミズク」とされているコノハズクは愛知県の県鳥です。かわいらしい小さな耳状の羽毛が特徴です。

「ミミ=耳=傾聴」

愛知大会のマークは、これにちなんで、「コノハズク」をモチーフにしました。ひとりひとは小さな力ですが、愛知支部を挙げてみなさんをお迎えします。

また、ミミズクはフクロウ目フクロウ科の鳥です。フクロウは知恵の神アテナのシンボルであり、知恵と知識を象徴する動物です。夜目がきくため、日本では「見通しが明るい」という意味もあります。これからの社会は先行き不透明とされますが、愛知大会で交わされる議論が、日本の学校教育相談の行く手を少しでも照らすものになれば幸いです。



(文責：愛知大会実行委員長 松原 正明)



★第25回夏季ワークショップ のご案内

第25回夏季ワークショップを、令和6(2024)年8月10日(土)にZoomによるオンラインで開催いたします。

概要は以下の通りです。

【日時】令和6(2024)年8月10日(土)

A、B、Cコース 9:30~12:30

D、E、Fコース 13:30~16:30

【開催方法】リアルタイムオンライン

【テーマ、講師】

<Aコース> カリキュラム改善で子どものウェルビーイングを高める—自分と相手を大切にできる子どもを育てるために—

講師：西岡加名恵氏

(京都大学大学院教育学研究科教授)

<Bコース> 青年期の発達障害支援

講師：村山光子氏

(明星大学発達支援研究センター客員教授)

<Cコース> ICT活用で変わる不登校支援

講師：森崎晃氏(東京学芸大学子どもの学び困難支援センター客員准教授)

<Dコース> 教育相談の現象学的アプローチ

講師：土屋弥生氏(日本大学文理学部教授)

<Eコース> 教育相談に活かすフォーカシング

講師：酒井久実代氏(和洋女子大学人文学部教授)

<Fコース> 論文作成のポイント—研究論文・実践論文を対象に—

講師：藤原和政氏

(兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授)

※各コースの概要はホームページをご確認ください。

【受講料】

- ・学校カウンセラー、学校カウンセラー・スーパーバイザー……2,000円
- ・その他の学会員……3,000円
- ・ガイダンスカウンセラーおよび構成団体会資格者(学校心理士、キャリア・カウンセラー、教育カウンセラー、カウンセリング心理士、臨床発達心理士)……3,000円
- ・一般……4,000円
- ・学生(社会人学生は除く)……2,000円

※受講料は1コース毎の受講料です。午前と午後1コースずつ、計2コースを受講される場合、2コース分の受講料が必要です。

※受講料のお支払いは、お申込後に送付する振替用紙にて期日までにお支払いください。

【受講申込】学会ホームページよりお申し込みください。

【受付期間】5月20日(月)正午~7月18日(木)正午

【問合せ先】日本学校教育相談学会夏季ワークショップ受付サポート係(平文社内)
jascg-ws@heibun.co.jp

ところで、最近、中央研修会および夏季ワークショップの案内が、1枚もののカラーのチラシになったことにお気づきのことと思います。これには次のようなメリットがあります。

- (1) カラーで見やすい
- (2) プリントアウトしやすい
- (3) 以下の方法で広報に活用しやすい
 - ① チラシを周囲の人に渡す
 - ② メールに添付して送信する

会員の皆さまからも周囲の方にご紹介いただけますと幸いです。

(文責：研修委員長 会沢 信彦)

一般社団法人日本学校教育相談学会 主催

日本学校教育相談学会 JASCg

第25回 夏季ワークショップ リアルタイムオンライン (Zoom)

学校心理士更新ポイントB1対象研修会

日本学校教育相談学会 第25回夏季ワークショップを今年もZoomによるオンラインで開催します。是非ご参加ください。

日時 令和6(2024)年8月10日(土)

プログラム

【午前の部】9:30~12:30

Aコース 西岡 加名恵 (京都大学大学院教育学研究科 教授)
「カリキュラム改善で子どものウェルビーイングを高める—自分と相手を大切にできる子どもを育てるために—」

Bコース 村山 光子 (明星大学発達支援研究センター 客員講師)
「青年期の発達障害支援」

Cコース 森崎 晃 (東京学芸大学子どもの学び困難支援センター 客員准教授)
「ICT活用で変わる不登校支援」

【午後の部】13:30~16:30

Dコース 土屋 弥生 (日本大学文理学部 教授)
「教育相談の現象学的アプローチ」

Eコース 酒井 久実代 (和洋女子大学人文学部 教授)
「教育相談に活かすフォーカシング」

Fコース 藤原 和政 (兵庫教育大学 教授)
「論文作成のポイント—研究論文・実践論文を対象に—」

受講料

◎学校カウンセラー(学校カウンセラー・スーパーバイザーを含む)……………2,000円

◎その他の学会員……………3,000円

◎ガイダンスカウンセラーおよび構成団体会資格者(学校心理士、キャリア・カウンセラー、教育カウンセラー、カウンセリング心理士、臨床発達心理士)……………3,000円

◎一般……………4,000円

◎学生(社会人学生は除く)……………2,000円

※上記受講料は、1コースごとの受講料になります。午前と午後1コースずつ、計2コースを受講される場合、2コース分の受講料が必要です。なお、午後のみ、午後のみご参加も可能です。※受講料のお支払いは、お申込後に送付する振替用紙にて期日までにお支払いください。

申込先 日本学校教育相談学会ホームページ
<https://jascg.info/> の
第25回夏季ワークショップ申込みリンクよりお申し込みください。

受付期間 2024年5月20日(月)正午~2024年7月18日(木)正午

問合せ先 日本学校教育相談学会夏季ワークショップ受付サポート係(平文社内)
☐ jascg-ws@heibun.co.jp

主催 一般社団法人日本学校教育相談学会 主催：日本学校教育相談学会研修委員会

☆支部のキラリ!☆

「一人を大切に作るチーム学校を目指して」

宮城県支部 熊谷 みち

宮城県の中学校に校長として勤務しています。教頭と校長に昇任した時に2年ずつ小学校にも勤務しました。はじめは、小学生が話している内容がよく分からないことが多くありましたが、どの子ども自分の思いを一生懸命に話していて、その子にとってはそれが真実なのだと感じました。今年度からまた中学校勤務となりましたが、体は大きくなった中学生でも、同じように本人たちなりの考えや思いがあることを忘れず、それを尊重し合う学校経営をしていきたいと考えています。



今回この原稿を書く機会をいただき、これまで取り組んできた不登校支援についてご紹介させていただきたいと思いました。不登校が多いことで知られている宮城県ですが、なかなか手応えのある支援策が見つからず、手をこまねいているうちに生徒たちは卒業してしまうというやるせない雰囲気は現場にはあふれています。管理職になって改めて不登校支援を見直した時、いちばんの課題は組織対応だと感じました。専門家を交えたチーム学校をいかに機能させるかということです。学校の教員はとても真面目なので、課題は自分で解決しようと考えますし、同僚以外の人に生徒の相談することに躊躇する傾向もあります。また、忙しくて連携に必要なコミュニケーションも残念ながら希薄です。そこで、教職員に専門家を含めたケース会議の有用性とその効果を実感させ、チーム学校としてのコミュニケーションを深めたいと思ったのがこの実践のはじまりです。

改めて、ケース会議について考えてみると、その是非にはいくつか要因があると気付きました。紙面の関係で全部はご紹介できませんが、特に大きな要因と考えているのは、アセスメントシートの準備と専門職の参加です。管理職になってからは、特にこ

のことを意識してケース会議を行ってきました。回数を重ねるごとに、職員もその効果を実感することが増えてきたと感じています。実際、不登校支援について、「他のクラスの出来事」ととらえる教員はいなくなりました。様々な児童生徒について共通理解が進み、その子の状況を皆が受け入れましたので、不登校だからといって陰に隠れる必要はなくなりました。また、支援方法について学年学級の枠を超えて相談し合う職員の姿も見られるようになりました。昨年まで勤務していた学校では、ある特支学級が「いつでも誰でもきていいですよ」という校内支援センターの役割を果たし、担任と連携して不登校支援を展開しました。このような変化は心理や福祉等の専門職の方々との連携の有用性を実感した結果だと思っています。また、その話し合いを有意義なものにするアセスメントシートも重要な役割を果たしました。全体から見れば本当に小さな変化かもしれませんが、何人でも、学校の中に自分の居場所を見つけ、自分を理解してくれる大人の存在に気付いたということは大きな成果であったと思っています。また、この取り組みは、以前、夏季ワークショップで受講した中村恵子先生（東北福祉大学）の講座から大きなヒントを得ています。それ以来、中村先生にご指南をいただきながら、学校全体で「一人のために」を合言葉に不登校支援を進めています。また、宮城県支部の皆さんにはいつも相談にのっていただき、とても感謝しています。微力ながら、これからも未来ある子どもたちのために、オーダーメイドの支援をチーム学校で考えていきたいと思

(担当：小川 正人)



★一支部活動報告—【高知県支部】

2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、2023年度は、対面での研修会を全面的に開始することができました。新型コロナウイルス感染症拡大の折は、リモート研修や紙上提案での総会実施などの工夫は行いました。それでも通常対面で行っていた研修会が実施・延期を余儀なくされました。

そのため、研修再開後、参加者が集まるか懸念されましたが、会を重ねるごとに参加者が戻ってきてくれました。特に、夏のワークショップで、島根大学教授 岩宮恵子先生をお招きしたときは、県外も含めて76名の参加がありました。

本支部の研修会の特徴の一つが、臨床心理士や精神科医を講師に招いて実施する非構成的エンカウンターグループによる事例研究です。当日参加者から出されたさまざまな事例をもとに講師からの助言をいただいたり参加者同士で協議したりしています。毎回30名前後の参加者があり、多くの参加者からの肯定的な感想をいただいています。

広報活動としては、支部の活動を伝える「高知県支部だより」の発行を行っています。また、以前郵送で行っていた研修会の案内をメールでの送信に切り替えたり、役員間の連絡についてラインワークスを活用したりするなど、デジタル化への対応も行っています。

事務局のこうした地道な広報活動を通じて、新たな参加者を開拓することもあります。他の支部と同様に、どのようにして会員を集めていくかという点が課題です。

学校の児童生徒や教職員を取り巻く状況は、社会の変化とともに大きく変わりつつあります。今後も、学校現場のニーズに焦点を当て、地域に根差した取り組みを模索していきたいと思っています。

【令和5年度の活動】

第1回支部研修会（事例研修会）

日時：令和5年5月13日（土）

会場：太平洋学園高等学校

内容：非構成的エンカウンターグループによる事例研究

講師：藪添 隆一 先生（臨床心理士）

令和5年度総会、第2回支部研修会

日時：令和5年6月24日（土）

会場：太平洋学園高等学校

総会：令和4年度事業報告、決算・会計監査報告、令和5年度事業計画、予算、役員を選任等

研修会：基調提案『生徒指導提要にもとづいた校内支援体制づくり』

今西 一仁 理事長



第3回支部研修会（事例研修会）

日時：令和5年7月15日（土）

会場：太平洋学園高等学校

内容：非構成的エンカウンターグループによる事例研究

講師：岩宮 恵子 先生（島根大学人間科学部人間科学科心理学コース教授）

夏のワークショップ

日時：令和5年7月16日（日）

会場：太平洋学園高等学校

内容：講演『思春期・青年期のこころの理解と支援』

講師：岩宮 恵子 先生（島根大学人間科学部人間科学科心理学コース教授）



第4回支部研修会（事例研修会）

日時：令和6年3月16日（土）

会場：太平洋学園高等学校

内容：非構成的エンカウンターグループによる事例研究

講師：藪添 隆一 先生（臨床心理士）

（文責 高知県支部理事長 今西 一仁）

★スクールカウンセラー情報

「今求められていること」

青森県支部 原 稜

教員を定年退職後、学会で得たガイダンスカウンセラーの資格を生かし、スクールカウンセラーとなって3年目に入りました。一昨年には公認心理師資格を取得しましたが、スクールカウンセラーとしてはまだ新米、悪戦苦闘が続く毎日です。

今年度は、小学校3校、中学校2校、小中一貫の学校を1校、合計6校を担当しています。学校規模は様々ですが、地域性もあって中・小規模の学校が多く、中には全校児童2名！という極小規模校もあります。

とは言え、例に漏れず面談内容はいろいろです。不登校はもちろんですが、その理由はひとつとして同じものはありません。別室登校や時間差登校で何とか登校を続ける子、発達障害やグレーゾーンが疑われ、集団への適応に苦しむ子、家庭での問題行動や子どもとの関わり方に悩む保護者、悩んだり苦しんだりしている先生方も多くいます。

面談を通じて起こるクライアントの変化や、変化を促したり受け入れたりする周囲の変化、さらにはチーム支援によって起こる変化…。スクールカウンセラーとして手応えを感じることもあれば、力不足を感じさせられることもやはりあります。その中で「助けが必要となるような状況を減らしたい。」「助けがほしいときに助けを求められる力や、助けを求められたとき、それに答えられる力を身につけてほしい。」という思いが強くなり、昨年、いくつかの学校でSELの授業を実施しました。

限られた訪問日で、学級1、2回の実施が精一杯でしたから、成果と言えるほどの変化が確かめられたわけではありません。しかし、先生方に伝わったことはあったように思います。スクールカウンセラーの立場で子どもたちと個別に関わることは、時間的に多くは望めません。しかし、日々関わっている



先生方の子どもたちを理解する視点や、関わり方の引き出しが増えれば、子どもたちの変化に繋がるように思います。そしてこのことは、先生方の苦しさを軽くすることにも繋がる、と感じました。

一昨年、生徒指導提要在改訂されました。前会長の栗原慎二先生によると、今回の改訂は「教育相談ベース」とのこと。確かにそれはあちこち感じられます。その一端として、スクールカウンセラーの立ち位置、求められる役割が格段に大きくなっています。従来の課題予防・課題対応的なことだけでなく、生徒指導の基盤とされた「発達支持的生徒指導」でも「スクールカウンセラーの協力」が明記されました。

学級担任から始まり、様々に立場を変えながら学校現場に身を置いてきましたが、子どもたちと学校（教育）とのミスマッチがどんどん大きくなっていく状況には、大きな危機感を感じてきました。生徒指導提要在変わった今、スクールカウンセラーは、学校と子どもたちの関わりを変えていく鍵になれるかもしれない、子どもたち・保護者・先生方、それぞれの抱える難しさや苦しさを、少しでも軽くしたり解消したりするチャンスかもしれない、と感じています。

スクールカウンセラーに「今、求められていること」は「学校に変化を起こすこと。」なのかなと思います。そのためには、小さな変化や一部の変化でも構わないから、とにかく始めることが大切です。私は長い間教員でした。その経験やスキルを生かして、学級に入ったり、子どもたちと活動したりすることで、変化へのスタートを切ろうと、今決意を新たにしています。

(担当：鈴木 由美子)



★新入会員紹介—群馬県支部—

昨年、群馬県支部では新たに7名の方が入会されました。会員増を目指して、各会員が職場の同僚に積極的に声をかけ続けてきたことや、会員外の方が参加しやすくなるように研修会を工夫してきたことが、成果を上げたものと思います。

新会員に入会の動機を聞くと、「カウンセリングを学びたかったから…。」「教育相談主任としてのスキルアップのため…。」「不登校児童やその保護者との関わり方のヒントを求めて…。」等が挙がりました。以下、新会員からのメッセージをいくつか紹介します。

○現在、大学で養護教諭の養成に関わっています。養護教諭を目指す学生に教育相談の実際をしっかりと伝えて行きたいと思っています。(大学看護学部助教)

○「息子がフリースクールに通い始めました。」そんな手紙が届きました。本人には一度も会えなかったけれど、タブレットでのわずかな文字のやり取りに、心情を織り交ぜ、掬い取り合った日々は、今も支えです。(小学校教頭)

○有名な講師の方の講演や様々な研修、実践発表等、教育相談に関して多方面から学ぶことができ、大変勉強になります。職場で生かしていきます。(小学校校長)

○学部や大学院の担当をしています。専門は、子ども家庭支援論、子育て支援等。また学内の子ども家庭支援センター長をしています。院生が当学会に入っていたので、入会させていただきました。(大学教授)

(文責：群馬県支部事務局長 藤本 重夫)



★研修委員会

1. 第34回中央研修会のふりかえり

3月9日(土)に開催した委員会で、第34回中央研修会のふりかえりを行いました。以下のような内容が話題となりました。

- 基本的には、コース別講座、パネルディスカッション、オンライン交流会のいずれについても参加者の満足度は高かった。
- 大幅な遅刻(概ね30分以上)については、研修修了証を発行できない旨、事前に告知した方が良い。
- コース別講座について、ブレイクアウトルームに参加されない方がおられた。
- オンライン交流会の実際の参加者が、申込の半分ほどであった。

2. 第35回中央研修会の予告

第35回中央研修会は、令和7(2025年)年1月26日(日)にZoomによるリアルタイムオンラインで開催することに決定しました。

第35回中央研修会では、「多様性」を統一テーマといたします。第34回同様、午前に「コース別講座」として4講座を開設いたします。午後は「パネルディスカッション」を行います。その後、オンライン交流会を企画しております。

現在、研修委員会で、鋭意プログラム(テーマ、講師)を検討しているところです。委員長である私自身が、「この人の話を聞いてみたい!」という方をお願いしたいと考えています。ぜひご期待ください。

(文責：研修委員長 会沢 信彦)

★調査研究委員会

調査研究委員会では、「学校における教育相談のあり方」をテーマに、学校教育相談体制を機能させる学校組織風土と教育相談コーディネーターの役割、教員に求められる教育相談に関する資質や能力についての研究を継続して進めています。令和5年度には、教育相談コーディネーター経験者を対象としたインタビュー調査と小・中・高校の教員を対象とした質問紙調査を行いました。現在はその分析を進めており、8月の第36回総会・研究大会(愛知大会)で調査結果の一部を報告したいと考えてい

ます。

教育相談コーディネーター経験者へのインタビューからは、地域や学校によって教育相談体制の状況はさまざまであることがうかがえました。私も数名の方にインタビューをさせていただきましたが、教育相談体制づくりが進んでいく過程では、管理職のリーダーシップやコーディネーターへのサポート、コーディネーターの推進力（子どもに積極的に関わり、会議に加えてちょっと話をする機会を作って教員間で情報を共有し、他の教員を巻き込んでいく力）、コーディネーターを励まし助言するスーパーバイザーの存在、教育相談に熱意を持ち続けている教員の存在などが重要であることを感じました。それぞれの教育相談コーディネーターの方が大事にしている姿勢や工夫などもお聞きしましたので、そうした声も今後ご報告していきたいと思っております。

（文責：調査研究委員長 金子恵美子）

★認定委員会

○令和5年度の資格取得等の状況について

- ・学校カウンセラー新規取得者 23名
- ・学校カウンセラーを基礎資格としたガイダンスカウンセラー新規取得者 8名
- ・学校カウンセラースーパーバイザー新規取得者 6名
- ・学校カウンセラー資格更新認定者 62名

○今年度の各種申請の締切等について

- ・学校カウンセラー申請
要項配布済み。締切：9月17日
- ・学校カウンセラー更新申請
該当者への案内配布7月上旬予定。
締切：12月20日
- ＊今年度該当者は、登録証明書（カード）の有効期限が2024年3月31日の皆様
- ・学校カウンセラーを基礎資格とするガイダンスカウンセラー申請
案内配布7月下旬予定
申請受付期間：9月2日～30日
- ・学校カウンセラースーパーバイザー申請
要項配布済み 締切：9月30日
どうぞ皆様、期日までに申請書類のご提出をよろしくお願ひします。ご不明な点は認定委員会へお問い合わせください。

ご注意ください！

『学校カウンセラー』新規認定、更新認定ともに新しい書類様式で申請をお願いします。

本学会ホームページに掲載されています。

○学校カウンセラースーパーバイザー資格更新の予定について

令和元年度に学校カウンセラースーパーバイザー資格を更新された皆様の更新年度は、学校カウンセラー更新と同様に更新年度を1年間繰り延べ、令和7年度に2回目の更新審査を行います。令和2年度に取得された皆様の1回目の更新審査と一緒にとなります。

○第3回学校カウンセラー事例研究会・情報交換会について

令和4年度、5年度の学校カウンセラー新規認定者を対象にオンライン方式で事例研究会・情報交換会を開催します。

対象者への案内配布：8月下旬予定

開催日時：11月23日(日) 10:00～12:00

新しく学校カウンセラーになられた皆様、一緒に学び合ひましょう。是非ご参加ください。

（文責：認定委員長 築瀬 のり子）

★学会誌作成委員会



本会報と共にお届けしている学会誌第34号をご覧ください。今回は寄稿論文2本と投稿論文2本を掲載しています。

さて、会報第67号でお知らせしましたが、学会誌第33号以降に掲載される論文のうち、事例を扱っていないもの、そして執筆者の了解が得られたものについては、公表することにしております。公表の方法は、学会ホームページからの閲覧及びJSTAGEやCiNii等において検索可能とする予定です。公表の可否については、学会誌掲載決定後に、執筆者に個別に確認いたします。この論文公表に伴い「審査に関するガイドライン」を修正しました。また、「投稿規定」の「6. 同一人（個人若しくは複数）の掲載は、連続して2回までとする。」を削除しました。学会誌第32号に掲載している「投稿規定・審査に関するガイドライン」をご確認ください。さらに、「論文作成の手引き」には、新たに「研究論文（心理学論文）作成のために」を掲

載しました。次に、「論文作成連続講座」を昨年度に引き続き開催します。1月、2月、3月に1回ずつ連続で受講していただき、お持ちの原稿を学会誌に投稿できるようブラッシュアップしていきます。少人数のオンラインゼミ形式で行います。詳しいご案内は、冬の中央研修会のご案内と同時にさせていただきます。夏のワークショップでは、本会報に同封のチラシのとおり、これまで同様の「論文の書き方」コースを実施しますので、ぜひご参加ください。

(文責：学会誌作成委員長 中村 豊)

★広報委員会

前号の会報第73号から、「会員の著書紹介」コーナーをスタートさせることができました。このコーナーは、皆様の推薦(自薦も可)があつてのもので、引き続き、会員の教育相談実践等に有益となる書籍の推薦をお願いします。広報委員長の松本(m.fam@d8.dion.ne.jp)まで、まずご連絡ください。記事は、推薦者を書いていただきますので、よろしくお願いします。

さらに、今号の会報第74号から、「新入会員の紹介」もスタートしました。まずは全国でも会員数の多い群馬県支部にお願いしました。今後、順次会員数が多い支部や入会者が増えている支部にお願いしていきます。入会の経緯や活躍の様子を含む支部役員等からの紹介記事と新入会員ご本人からのメッセージを主な内容とします。全国の支部にとって、会員を増やすヒントになることも意図しています。割り当てになった支部のご協力と紹介された内容のご活用をお願いします。

広報委員会が担当する学会のSNS(XやFacebook)活用を検討中です。令和6年度は準備期間で、早ければ令和7年度中には、現在の一般的なWEBサイトに加え、運用を開始する見込みです。支部の中でも活発に意見を出し合い、今夏の学会総会や支部代表者会議・支部事務局長会議などを通して、SNSのツールや必要な機能、活用の工夫などについて、声を届けていただけるとありがたいです。

(文責：広報委員長 松本 直美)



★ガイダンスカウンセラー関連情報

第14回公開シンポジウム2024

ーハイブリッド型オンラインシンポジウムー
多様な子どもたちが安心して学べる学校づくりに
スクールカウンセリングはどう貢献できるか

主催：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会

後援：文部科学省他

日時：2024年6月29日(土)

13:00~16:00

参加費：2,000円

会場：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
Room C

1. 講演 「多様な子どもたちが安心して学べる
学校づくり スクールカウンセリング
への期待」15分

柴山昌彦氏〔衆議院議員、元文部科学大臣〕

2. 講演 「多様な子どもたちが安心して学べる
学校づくり」30分

仲村健二氏〔文部科学省初等中等教育局児童
生徒課生徒指導室長〕

3. シンポジウム

[司会]：近藤清美氏〔帝京大学教授〕

[シンポジスト]

・一色 翼氏〔川口短期大学専任講師・前さいたま
市公立小学校教諭〕

『子どもたちの心理的安全性を高める学級づくりの
観点からー教師の挑戦を支える、保護者との間の
心理的安全性を基盤としてー』

・仲里直美氏〔中継県公立中学校教諭〕

『多様な子どもたちを支援するためのチーム支援の
観点からー教育相談コーディネーターとしての取
り組みー』

・水川和彦氏〔岐阜市教育長〕

『草潤中学校(学びの多様化学校)が提案する「選
択と行動」の教育』

<申込方法>一般社団法人日本スクールカウンセリ
ング推進協議会事務局

電話：03-3941-8049

メール：info@jsca.guide

(文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング
推進協議会理事 学校カウンセラー・
ガイダンスカウンセラー 加勇田 修士)

★会長コーナー

新年度が始まってしばらく経ちましたが、みなさんお変わりないでしょうか。私の方は、大きな変化がありました。立命館大学大学院教職研究科の特任教授は3月で満期終了となり、憧れのフリーランスの生活ができるワクワクしていましたが、4月から諸般の事情により滋賀県の私学「近江兄弟社高等学校」の校長に着任することになりました。立命館大学附属校のケース会議SV、宝塚市教育委員、大津の子どもをいじめから守る委員会などの仕事も継続しながらであり、今までの人生で一番忙しい日々を送っています。

この間、いろんな方々と話をして感じていることが一つあります。それは、いろんなところで、コミュニケーション不全が起きているのではないかということです。学校教育相談の軸は、子ども、保護者、同僚に、「話を聴いてもらえた」「話せてよかった」と実感してもらえることにあります。どうしたらそんな聴き方ができるのでしょうか。同時に大切なことは、解決策を提示することではなく、一緒に考えるプロセスにあります。どうしたら、そんな双方向の関係をつくっていただけるのでしょうか。

8月3日(土)～4日(日)に本学会の第36回研究大会が愛知県刈谷市で対面開催されます。その際に、「学校教育相談のこれまでとこれから」(仮)と題して、本部企画のシンポジウムを行います。上記のコミュニケーション不全と双方向の関係などについても議論したいと考えています。

(文責：会長 春日井 敏之)



★事務局より

今年度も夏の全国研究大会に関する三次案内をメルマガにより配信したり、HPより申込を受け付けたりしています。今回の大会もHPからの申込になっていますので、お間違えのないようにお願いします。今回の愛知県大会は、数年間でできなかった参集型の大会となります。是非、多くの皆様の参加をお待ちしております。

○会長副会長、全国役員会は、継続してオンラインで実施しています。支部代表者会や支部事務局長会もオンラインで実施する予定です。



○メルマガによる情報発信を始めて1年が経過しています。登録した方は1000人を超えました。今までは、各支部を通して登録していましたが、直接本部とのやりとりで登録できるように切り替えていく予定です。

○ガイダンスカウンセラー資格関連情報や研修会については、推進協議会のHPを参照してください。

(文責：事務局長 木村 正男)

★編集後記

5年ぶりとなる参集型の研究大会や、会員の意向を踏まえながら新たな方法で進化する夏季ワークショップが近づき、学校カウンセラー認定・更新手引き改正下での申請もスタート、学会誌掲載論文の公開や論文作成の充実の動きが進み、学会の発展・充実を感じる第74号になりました。調査研究委員会の最新の研究成果もバールを脱ぐときが近づいています。

そして、支部会員や会員のスクールカウンセラーとして熱い思いや活躍、新入会員の息吹も感じられます。全国の同志の熱意や情熱を励みに、自分も子どもたちのために頑張らねばと、思いを新たにしているのは私だけではないと思います。

(文責：広報委員長 松本 直美)



一般社団法人日本学校教育相談学会 会報

第74号

令和6年6月20日発行

発行 一般社団法人 日本学校教育相談学会
会長 春日井 敏之

編集 一般社団法人 日本学校教育相談学会
広報委員会 委員長 松本 直美

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄3-11-28

一般社団法人 日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>